



## 喜多埜

## 氷

今月七日には立秋を迎え、暦の上では秋になるとはいえ、まだまだ暑い日が続きます。こんな時に嬉しいのが、冷たい「かき氷」ではないでしょうか。

そんな氷が史実に登場するのは、『日本書紀』の仁徳天皇さまの段で、現在の奈良市南東部にあった都祁村の氷室(ひむろ)天然の冷蔵庫(氷を、仁徳天皇さまに献上したところ大層お慶びになられたという記録が初見です。平安時代にも、清少納言によって書かれた『枕草子』に、「金属製の器に削った氷を入れて甘い汁をかけて食べるのはとても良い」と記述されており、紫式部の『源氏物語』にも「氷に氷を入れて飲む」など、少しでも冷たく頂こうとする平安人の知恵がしのばれます。

しかし、冷凍技術の無い時代、氷を維持するのは並大抵の事ではありませんでした。平安時代の法令集である『延喜式』によれば、氷を夏まで保管する為に、当宮(祭神の嵯峨天皇さま)がよく遊獵に訪れた、山城国(京都府)栗栖野を始め、畿内に合計二十一室もの氷室を設置し、その氷室に従事する人数の合計はなんと七九六人に達すると書かれています。

これだけを読むと、氷は一部の特権階級のみしか口にする事が出来なかったと思ってしまうのですが、『正倉院文書』などによれば、東大寺の写経所が、市(市場)で氷を購入したという記述があり、思いの外、氷は一般庶民にも出回っていたようです。ですが、暑い中、冷たいものの取りすぎにはご注意ください。

## ドライ型ミスト設置

先月下旬から茶屋町の御旅社では、簡易なものです。鳥居に冷霧を散布する器具を設置しております。

これは微細な霧を空气中に噴霧する事で、気化熱を利用して周辺の気温を下げる効果を狙ったドライ型ミストと呼ばれるもので、都市熱により、年々暑さが増している茶屋町界限の気温を少しでも下げようという狙いで取り付けました。

先月、実際にその効果を計測したところ、冷霧を使った時と使わない時の温度差はじつに四度も違ってあり、都市中心部であればあるほど、その効果が高い事が実証されました。簡易なものですので、長時間浴びると濡れてしましますが、鳥居をくぐる際など、ちょっとした時間であれば爽快だとか好評です。

特に小さなお子様は大人よりも路面の反射熱で熱中症になりやすいですので、道ゆく子供さんは鳥居から出る冷霧を見つけると、飛びつくように涼をとっている姿を時々見かけます。厳しい暑さの八月、どうぞ熱中症にはお気を付け下さい。

## 桂佐ん吉さん落語会

今月の八月三日(金)の午後七時頃から、茶屋町の御旅社で人間国宝、桂米朝さんのお弟子さんの桂佐ん吉さんの落語会が開かれます。(有料(五百円から)・開場は午後六時三十分)

詳細は米朝事務所までお問い合わせ下さい。  
米朝事務所 〇六一六三六五八二八一

## 神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、  
au、モバイルPC 対応



編者 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀 知

